

令和7年度第1回 苫小牧市公共交通協議会

日時 令和7年5月1日（木） 午後2時～

場所 苫小牧市役所 9階 91、92会議室

次 第

1 開 会

2 議 題

（1）報告事項

- 第1号：苫小牧市公共交通協議会委員の変更について
- 第2号：令和6年度事業報告について
- 第3号：令和6年度決算報告について
- 第4号：令和6年度監査報告について

（2）協議事項

- 第1号：令和6年度苫小牧市地域公共交通計画の事業評価（案）について
- 第2号：令和7年度事業計画（案）について
- 第3号：令和7年度予算（案）について

3 そ の 他

- （1）令和6年度 自動運転バス実証運行について
- （2）北海道のマッチングサイトへの登録の呼びかけについて

4 閉 会

苫小牧市公共交通協議会委員の変更

公共交通協議会委員の所属人事異動等により、以下の委員の変更が生じたので報告する。

旧		新	
苫小牧市 総合政策部 まちづくり推進室 室長	神保 英士 (事務局へ)	苫小牧市 総合政策部 部長	山田 学
あつまバス株式会社 営業部営業課 次長	吉田 章	あつまバス株式会社 営業部営業課 課長代理	新保 智之
国土交通省北海道運輸局 室蘭運輸支局 首席運輸企画専門官	門間 俊也	国土交通省北海道運輸局 室蘭運輸支局 首席運輸企画専門官	佐々木 崇史
苫小牧市 都市建設部 次長	清野 広司	苫小牧市 都市建設部 次長	吉田 陽輔
北海道札幌方面 苫小牧警察署 交通官	上月 英司	北海道札幌方面 苫小牧警察署 交通官	長原 志郎
北海道苫小牧東高等学校 教頭	南川 亮一	北海道苫小牧南高等学校 校長	安達 妙己

令和6年度事業報告

令和6年度の苫小牧市公共交通協議会が実施した事業について、下記のとおり報告する。

(1) 苫小牧市公共交通協議会 開催

令和6年度第1回（書面会議） 令和6年6月18日

【協議事項】

- ・樽前予約運行型バス（樽前ハッピー号）計画申請（案）について

令和6年度第2回 令和6年7月30日

【報告事項】

- ・苫小牧市公共交通協議会委員の変更について
- ・令和5年度公共交通関連事業について
- ・令和5年度事業報告について
- ・令和5年度決算報告について
- ・令和5年度監査報告について
- ・地方版図柄入りナンバープレート寄付金活用事業について

【協議事項】

- ・令和5年度苫小牧市地域公共交通計画の事業評価（案）について
- ・令和6年度事業計画（案）について
- ・令和6年度予算（案）について

令和6年度第3回（書面会議） 令和7年1月10日～16日

【協議事項】

- ・地域公共交通確保維持改善事業（地域内フィーダー系統）の事業評価（案）について（樽前予約運行型バス運行についての自己評価）
- ・苫小牧市公共交通利用促進事業補助金交付要綱改正（案）及び苫小牧公共交通利用促進事業補助金交付決定に関する基準（案）作成について

令和6年度第4回 令和7年1月21日

【報告事項】

- ・苫小牧市公共交通協議会委員の変更について
- ・路線バスダイヤ改正について（道南バス株式会社）
- ・ナイとまバス実証運行実施報告について

【協議事項】

- ・令和7年度事業計画（案）（参考：令和7年度予算（案））

（２）公共交通利用促進事業

■ 産学連携事業

【バス車両の装飾】

苫小牧総合経済高校様と苫小牧看護専門学校様のご協力により、路線バスの車内装飾を実施し運行した。装飾はクリスマス仕様とお正月仕様の２種類で、後述の「ナイとまバス」運行時においてもこれらの装飾車両を使用した。



■ 乗り方教室

【バスの日イベント】

令和6年8月31日、9月1日、2024たるまえサンフェスティバルに合わせて「みんなのバスプロジェクト 2024バスの日 in TOMAKOMAI」と題し、バス車両を用いたバスの乗り方教室を開催した。（主催：道南バス㈱）



【南包括支援センター】

令和6年10月16日、南包括支援センターで介護予防教室と合わせてバスの乗り方教室を実施した。（主催：道南バス㈱）



■ 自動運転バス実証運行

令和6年9月7、8日の TOMAKOMAI MIRAI FEST と、令和6年12月5日～令和7年2月16日において、自動運転バスの実証運行を実施した。



■ ナイとまバス実証運行

忘年会シーズンの12月20日、21日、27日、28日において、21時15分発と23時発の夜間便（光洋澄川線と沼ノ端勇払線の既存路線を活用）を運行した。



■ バス待合所の整備

【バス停付近へのベンチ設置】

バス停「苦信西支店前」と「日新3丁目」付近の民間店舗に許可をいただき、バス待ちの利用者が座れるよう、敷地内にベンチを設置した。（今後も引き続き増設予定。）



【バス待合所ソーラーパネル式電灯の設置】

令和6年度第4回公共交通協議会にて、夜間の交通事故防止策としてバス停への照明設備設置の提案があった。これを受け、川沿体育館前（北）、日新3丁目（北）、日新温水プール（北）、桜木4丁目（北）、北星小学校前（北）の5カ所の待合所にソーラーパネル式電灯を設置した。（今後も引き続き増設予定。）



【コンビニエンスストア店舗内でのバス待合活用】

令和7年2月にファミリーマート様の苦小牧春日町店と苦小牧住吉町店をバス待合所としての活用の許可をいただいた。両店舗内ではバス待合の他、バスキタ！道南広告の掲示やバス時刻表を設置した。（今後も引き続き増設予定。）



令和6年度決算報告書

収入決算総額	2,487,469 円
支出決算総額	1,966,040 円
差引残額	521,429 円 (次年度繰越金)

(収入の部)

款	項	目	節	当初予算額	決算額	比較増減	説明
1 負担金	1 負担金	1 負担金	-	1,567,000	2,207,000	640,000	苫小牧市負担金 (ナイとまバス実証運行事業費を含む)
2 補助金	1 補助金	1 補助金	-	0	0	0	
3 繰越金	1 繰越金	1 繰越金	-	229,853	229,853	0	
4 諸収入	1 諸収入	1 雑入	-	147	50,616	50,469	交付金、預金利息
合 計				1,797,000	2,487,469	690,469	

(支出の部)

款	項	目	節	当初予算額	決算額	比較増減	説明
1 運営費	1 会議費	1 会議費	-	4,000	0	▲ 4,000	
	2 事務費	1 事務費	1 報償費	180,000	60,000	▲ 120,000	
			2 旅費	132,000	33,220	▲ 98,780	
			3 需用費	65,000	7,120	▲ 57,880	水代等
			4 役務費	30,000	9,680	▲ 20,320	振込手数料
		小 計		407,000	110,020	▲ 296,980	
2 事業費	1 事業費	1 事業費	-	1,386,000	1,856,020	470,020	バス待合施設改修・修繕(補助金)、バス マップ作成、ナイとまバス実証運行
3 諸支出金	1 諸費	1 償還金	-	0	0	0	
4 予備費	1 予備費	1 予備費	-	0	0	0	
合 計				1,797,000	1,966,040	169,040	

会計監査報告書

令和7年4月24日

苫小牧市公共交通協議会

会長 下 夕 村 光 弘 様

監査員 堀 抜 信 吾



苫小牧市公共交通協議会の令和6年度会計収支決算及び収支状況について
監査した結果、次のとおり報告いたします。

記

- 1 監査を行った日 令和7年4月24日
- 2 監査を行った場所 苫小牧商工会議所
- 3 監査の結果

収入・支出について、帳簿、支出命令票、領収書等を照合精査したところ、
いずれも正確であった。

また、現金残高についても、貯金通帳と照合したところ、正確であった。

「苫小牧市地域公共交通計画」の事業評価（案）（令和6年4月～令和7年3月）

目標				目標を達成するための取組	調査方法	実績 【令和6年度】	事業評価（令和6年度）／次年度に向けた取組（令和7年度）	備考	
指標	現状値	目標値 【令和7年度】							
【目標1】利用促進と利便性向上（施策①～④）									
①	鉄道輸送密度	室蘭線：388人/日 日高線：528人/日 （令和元年度）	室蘭線：439人/日 日高線：528人/日	施策① JR利用促進事業 施策② 公共交通路線維持費補助事業 施策③ 決済のキャッシュレス化 施策④ 車両のバリアフリー化	JRアクションプラン における輸送密度	実績集計中。 今後の協議会で報告。 室蘭線： 日高線： 【令和5年度（参考）】 室蘭線：325人/日 日高線：390人/日	【事業評価】 ・北海道鉄道フェスティバルブース出展協力（R6.9.21） ・JRひとめぐり号イベントへの協力（R6.10.14） ・JR日高線モニター事業の実施（R6.12-R7.1） ・カムイサウルス復興トレイン企画（R7.1-2） ・広報誌やSNSでの利用促進、イベント情報の発信 ・沿線自治体イベントを掲載した公共交通利用促進ポスター作成、掲出《4回》 【次年度に向けた取組】 ・沿線自治体及びJR、北海道と協力した実証事業の取組 ・JRひとめぐり号イベントへの協力（R7.10月頃予定） ・広報誌やSNSでの利用促進、イベント情報の発信 ・JRヘルシーウォーキング開催の協力 ・沿線自治体イベントを掲載した公共交通利用促進ポスター作成、掲出		
②	路線バスへの路線補助額	56,195千円 （令和元年度）	56,195千円以内		補助実績	広域：34,093千円 市独自：72,287千円 合計：106,380千円 【令和5年度（参考）】 広域：59,538千円 市独自：55,460千円 合計：114,998千円	【事業評価】 ・市内路線バスを運行する道南バス㈱に対し、公共交通路線維持費補助金（額は左記のとおり）を交付 ※ コロナ禍からの利用者回復により前年度比8,618千円減少 ・ギャラリーバスの運行（R6.12月 苫小牧総合経済高等学校及び苫小牧看護専門学校の学生によるメリークリスマス装飾） 【次年度に向けた取組】 ・バスの乗り方動画の放映（継続） ・ギャラリーバスの運行 ・バスロケーションシステム「バスキタ！道南」及び運行表示ディスプレイ「デジタルサイネージ」の周知（広報誌、SNS）		
【目標2】将来都市構造に対応した持続可能な公共交通網の形成（施策⑤～⑧）									
⑤	路線バス実車走行km当たり利用者数	1.17人/km （令和元年度）	1.17人/km	施策⑤ 東西の基幹交通軸におけるバス路線の効率化 施策⑥ 需要に合わせた運行本数の調整 施策⑦ バス停留所の改善 施策⑧ 植苗・美沢地区コミュニティバス（とこバス）運行事業 施策⑨ 樽前予約運行型バス（樽前ハッピー号）運行事業 施策⑩ 新たなモビリティサービスの導入に関する調査研究 施策⑪ 障がい者・高齢者等の通院手段の確保（福祉有償運送） 施策⑫ 遠隔地への通学手段の確保（スクールバスなど）	市内路線バス輸送実績（路線バス利用者数÷実車走行km）	実績集計中。 今後の協議会で報告。 利用者数： 実写走行km： km当たり利用者数： 【令和5年度（参考）】 利用者数：2,210,373人 実車走行km：1,912,095km km当たり利用者数：1.16人/km	【事業評価】 ・市内路線バス通学定期券補助（R5.12～） ・広報誌等を利用したバスの安全性や利用促進に関する周知 ・自動運転バスの夏季（R6.9.7～9.8）及び冬季実証運行（R6.12.5～R7.2.16） 【次年度に向けた取組】 ・市内路線バス通学定期券補助（継続） ・広報誌等を利用したバスの安全性や利用促進に関する周知（継続）		
⑥	とこバス・樽前ハッピー号1便当たり平均乗車人数	とこバス：2.2人 ハッピー号：5.2人 （令和元年度）	とこバス：2.7人 ハッピー号：5.7人		運行実績（利用者数÷運行便数）	とこバス：2.7人 ハッピー号：3.4人 【令和5年度（参考）】 とこバス：2.3人 ハッピー号：2.9人	【事業評価】 ・とこバスの運行実績は、横ばいで推移 ・ハッピー号の運行実績は、樽前小学校の特認児童数の減少により、減少 【次年度に向けた取組】 ・利便性向上につなげることを目的としたアンケート調査の実施		

「苫小牧市地域公共交通計画」の事業評価（案）（令和6年4月～令和7年3月）

目標				目標を達成するための取組	調査方法	実績 【令和6年度】	事業評価（令和6年度）／次年度に向けた取組（令和7年度）	備考
指標	現状値	目標値 【令和7年度】						
【目標3】繋ぎ目のない交通の実現（シームレス化）（施策⑩～⑫）								
⑩	各生活拠点におけるバス待合整備箇所数	0箇所 （令和2年度）	4箇所	施策⑩ 苫小牧駅の駅前広場及び駅周辺の一体的な再整備の実施 施策⑪ 苫小牧駅と各地区の拠点を結ぶバス路線の充実 施策⑫ 待合施設の整備 施策⑬ 公共施設・商業施設等の屋内バス待合整備 施策⑭ 乗り継ぎ利便のためのダイヤ調整 施策⑮ 乗り継ぎ割引	整備箇所数	11箇所 【令和5年度（参考）】 5箇所	【事業評価】 ・バス待合所修繕及び整備を2か所実施 ※ 錦岡三郡バス待合所撤去 ※ 沼ノ端駅南口のデジタルサイネージモニターが損傷したため、新規モニターに交換（合計市内設置台数13か所） ・ファミリーマート苫小牧春日町店と苫小牧住吉店にバス待合としての活用の許可をいただいた ・市内5か所のバス停留所にソーラーパネル式電灯を設置 ・苫信西支店前と日新3丁目のバス停付近にベンチを設置 【次年度に向けた取組】 ・停留所付近のファミリーマート等の店舗にバス待合所機能としての利用協力を要請（継続） ・バス待合所修繕及び整備（継続） ・バス停留所にソーラーパネル式電灯を設置（継続）	
【目標4】わかりやすく、安心・便利な交通サービスの提供（施策⑯～⑳）								
⑯	公共交通利用講習開催回数・参加者数	1回・20名 （令和元年度）	5回・100名	施策⑯ 公共交通利用講習 施策⑰ 路線図・時刻表の更新・発行 施策⑱ バスロケーションシステムの導入・利用促進 施策㉒ 運行表示ディスプレイの設置	講習開催回数・参加者数	2回・約230名 【令和5年度（参考）】 4回・約60名	【事業評価】 ・バスの乗り方教室の開催（2回） ※ たるまえサンフェスティバル、南包括支援センター 【次年度に向けた取組】 ・バスの乗り方教室の開催（継続）	
⑰	市内公共交通の市民満足度	46.4% （平成28年度）	51.40%		市民アンケート調査	－ （令和3年度：44.40%）		※ 市民アンケート調査実施時期：総合計画策定期に併せて5年ごとの実施 《次回実施：令和8年度》
【目標5】広域移動利便・観光振興への貢献（施策㉓～㉕）								
⑰	「他都市への乗り継ぎ」などの市民満足度	62.1% （平成28年度）	67.10%	施策㉓ 苫小牧駅から新千歳空港へのアクセス確保 施策㉔ 苫小牧駅からフェリーターミナルへのアクセス確保 施策㉕ 苫小牧駅から観光施設へのアクセス確保	市民アンケート調査	－ （令和3年度：65.30%）		・市民アンケート調査実施時期：総合計画策定に向けて5年毎の実施【次回令和8年度】
【目標6】関係者の協力に基づく計画的な実施（施策㉖～㉗）								
⑱	公共交通利用促進イベント開催回数 ※ 目標⑰、㉑と内容重複	3回 （令和元年度）	6回	施策㉖ 苫小牧市公共交通協議会の開催 施策㉗ モビリティマネジメントの推進	利用促進イベント開催回数	6回 【令和5年度（参考）】 6回	【事業評価】 ・北海道鉄道フェスティバルブース出展協力（R6.9.21） ・JRひとめぐり号イベントへの協力（R6.10.14） ・JR日高線モニター事業の実施（R6.12-R7.1） ・カムイサウルス復興トレイン企画（R7.1-2） ・バスの乗り方教室の開催（2回） ※ たるまえサンフェスティバル、南包括支援センター 【次年度に向けた取組】 ・JR日高線、室蘭線モニター事業の実施 ・北海道鉄道フェスティバルブース出展協力 ・JRひとめぐり号イベントへの協力 ・バスの乗り方教室の開催（継続） ・バスシンポジウムへの協力	
㉑	路線バスの利用頻度（月1回以上の割合回数）	22.0% （令和元年度）	27.00%		市民アンケート調査	－		※ 市民アンケート調査実施時期：地域公共交通計画更新時に調査を実施《次回実施：令和7年度》

令和7年度事業計画（案）

（１）「苫小牧市地域公共交通計画」に係る施策推進及び評価

- ・計画に位置付けた施策の推進
- ・計画の事業評価を実施（毎年度実施）
- ・公共交通計画改訂（５月にプロポーザル公告予定）

（２）公共交通利用促進事業

- ・バス待合所等施設修繕及び整備事業
- ・道南バス株⇄高等学校、小学校、幼稚園、包括支援センター等との連携事業（車両のラッピング、乗り方教室等）
- ・利用促進ポスターの作成
- ・バスマップの作成・修正

（３）その他事業

- ・ナイとまバス実証運行事業
- ・勇払 AI オンデマンド乗合タクシー実証運行（５月にプロポーザル公告予定）

（４）「苫小牧市公共交通協議会」開催予定

第１回 令和7年5月（今回）

- ・令和6年事業報告
- ・令和6年決算報告
- ・令和6年監査報告
- ・令和7年度事業計画案について
- ・令和7年度予算案について

第２回 令和7年6月（予定）※ 書面開催

- ・樽前予約運行型バス（樽前ハッピー号）計画申請（案）について

第●回 令和8年1月（予定）

- ・地域公共交通確保維持改善事業（地域内フィーダー系統）の事業評価（案）について（樽前予約運行型バス運行についての自己評価）

（５）苫小牧市地域公共交通計画改訂に係る「計画検討分科会」適宜開催予定

※ 分科会、協議会については、必要に応じて追加開催することがある。

※ 検討、協議内容により、スケジュールに変更が生じることがある。

令和7年度 苫小牧市公共交通協議会 予算（案）

収入予算総額 2,572,000 円
 支出予算総額 2,572,000 円
 差引予算残額 0 円

（収入の部）

款	項	目	節	R7年度 予算額	R6年度 予算額	対前年度増減額	説明
1 負担金	1 負担金	1 負担金	-	2,050,000	1,567,000	483,000	苫小牧市負担金 （ナイとまバス実証運行事業費を含む）
2 補助金	1 補助金	1 補助金	-	0	0	0	
3 繰越金	1 繰越金	1 繰越金	-	521,429	229,853	291,576	
4 諸収入	1 諸収入	1 雑入	-	571	147	424	預金利息
合 計				2,572,000	1,797,000	775,000	

（支出の部）

款	項	目	節	R7年度 予算額	R6年度 予算額	対前年度増減額	説明
1 運営費	1 会議費	1 会議費	-	4,000	4,000	0	会場使用料（4,000円×1回）
	2 事務費	1 事務費	1 報償費	180,000	180,000	0	5,000円×36名（延べ人数） （協議会7名×4回）（分科会2名×4回）
			2 旅費	132,000	132,000	0	6,600円×20名（延べ人数） （協議会3名×4回）（分科会2名×4回）
			3 需用費	65,000	65,000	0	消耗品費・食糧費（水代）
			4 役務費	30,000	30,000	0	振込手数料等
		小 計		407,000	407,000	0	
2 事業費	1 事業費	1 事業費	-	2,161,000	1,386,000	775,000	バスマップ作成、バス待合所修繕等 （ナイとまバス実証運行事業費を含む）
3 諸支出金	1 諸費	1 償還金	-	0	0	0	
4 予備費	1 予備費	1 予備費	-	0	0	0	
合 計				2,572,000	1,797,000	775,000	

令和 6 年度 自動運転バス実証運行

Autonomous Driving in Hokkaido Tomakomai

*Run towards
the future*

令和 7 年 5 月 1 日

総合政策部まちづくり推進課

交通政策担当



1 目的



- ▶ 市内バス路線の将来像を見据え、「需要の偏り（スポット）」又は「南北移動不便地域」に対して足を確保する手段として実証

課題種別	対応手段
東西基幹	市内路線バス 
需要の偏り（スポット）／ 南北移動不便地域	(デマンド) タクシー + 自動運転バス  

- ▶ **全国で初となる（※）、冬季での長期実証**を行い、降雪、冬道の圧雪や凍結路面でも運行可能か検証

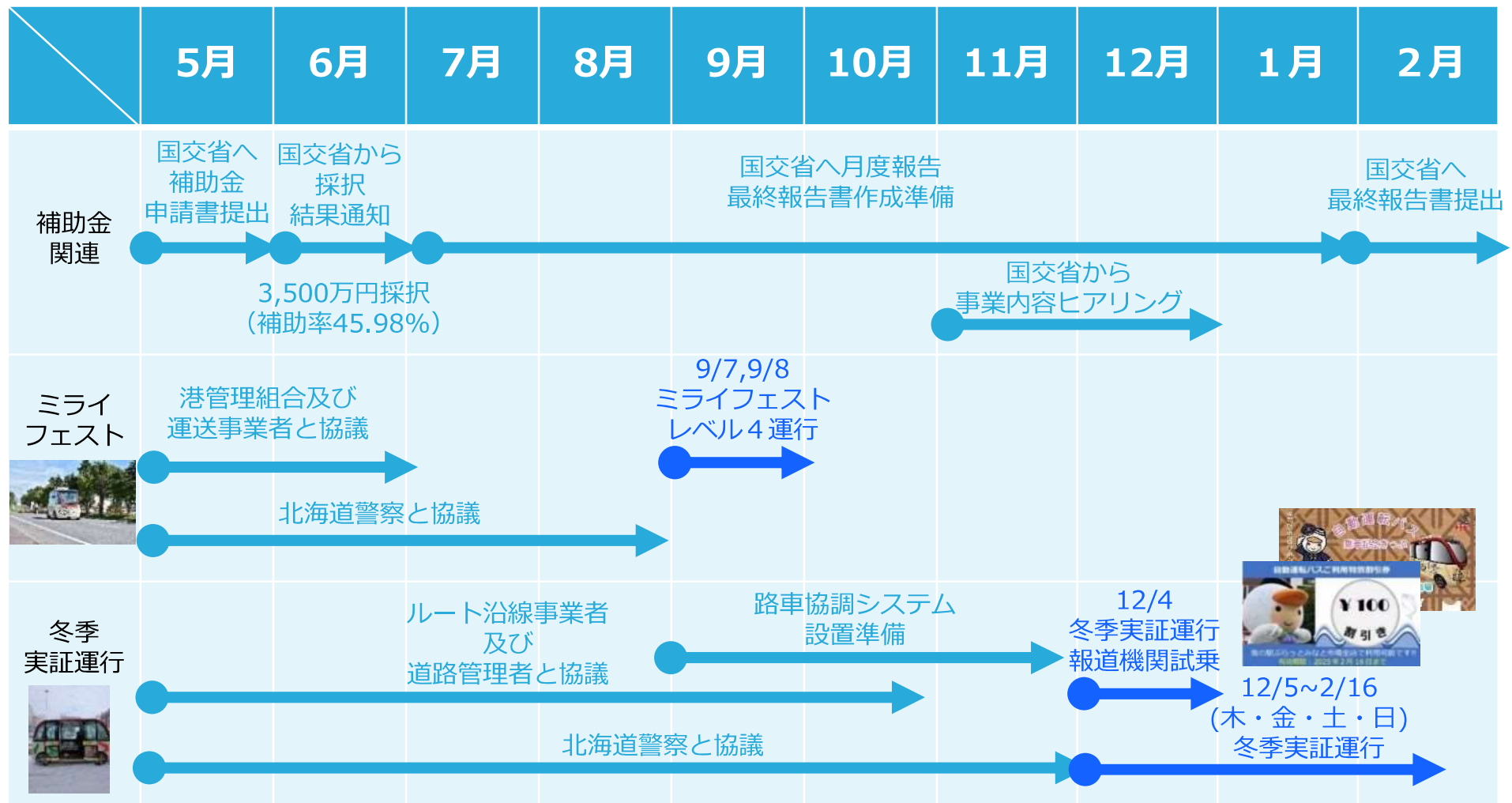
（※） 降雪時においても、運休せずに運行を行い、データをとった実証運行は全国で初



2 実証内容 ①



▶ 実証スケジュール



2 実証内容 ②

▶ ルート及び概要



	TOMAKOMAI MIRAI FEST	冬季実証運行
ルート	キラキラ公園に隣接する臨港道路 (片道約200メートル)  ・封鎖した臨港道路（公道）による、自動運転レベル4での実証運行	苫小牧駅 ⇄ ぷらっとみなと市場 (片道約2.3キロメートル)  ・全国で初となる、冬道の圧雪や凍結路面での3か月という長期間での冬季実証運行 ・交差点における通行車両の情報を共有し安全性確保のための路車協調システムの導入
運行期日	9/7,9/8	12/5～2/16 木・金・土・日（無運休）
利用者人数	429人	1,117人

3 アンケート結果 ①



- 利用者に対して、降車時にアンケートを実施

回答方法

紙媒体 又は QRコード

回答者数

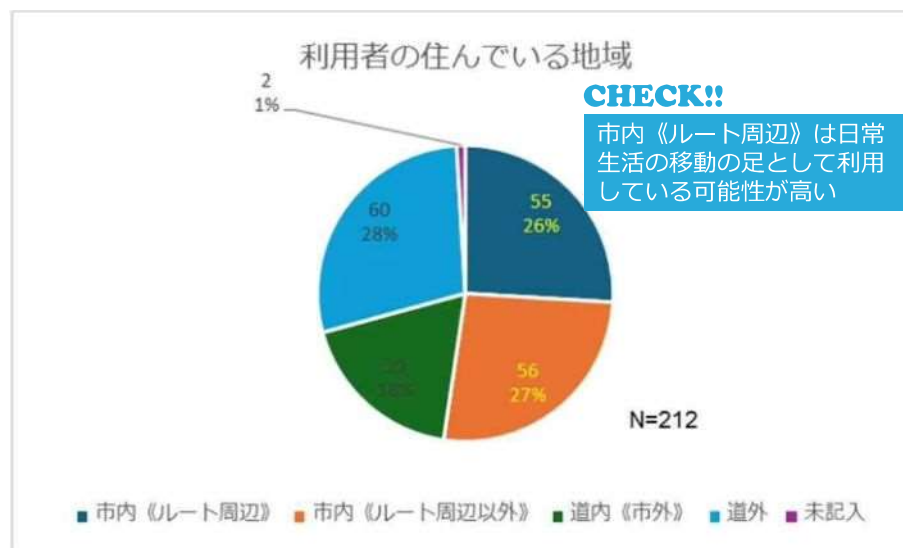
212人（乗車数比 18.98%）



➤ 利用者属性

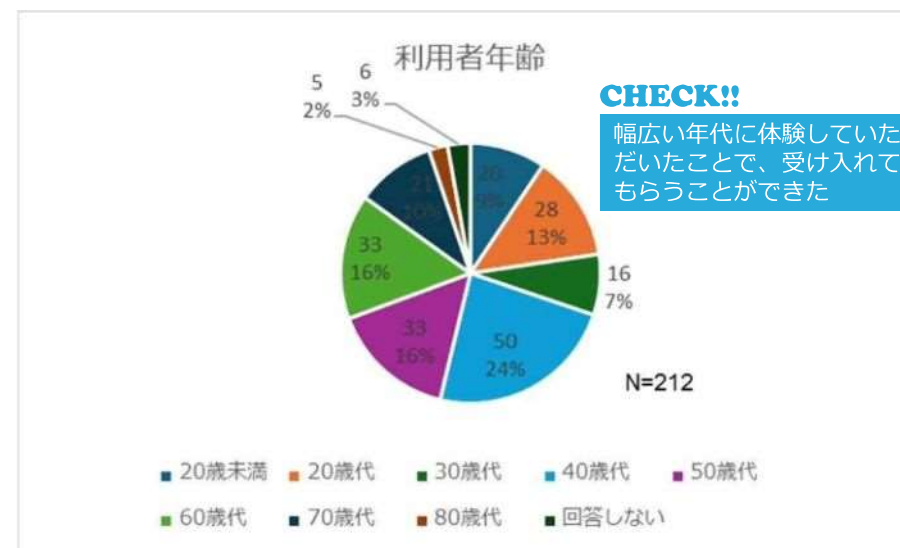
(1) 住んでいる地域

市内 約 5 割（ルート周辺26%）



(2) 年齢

どの年代も満遍なく乗車



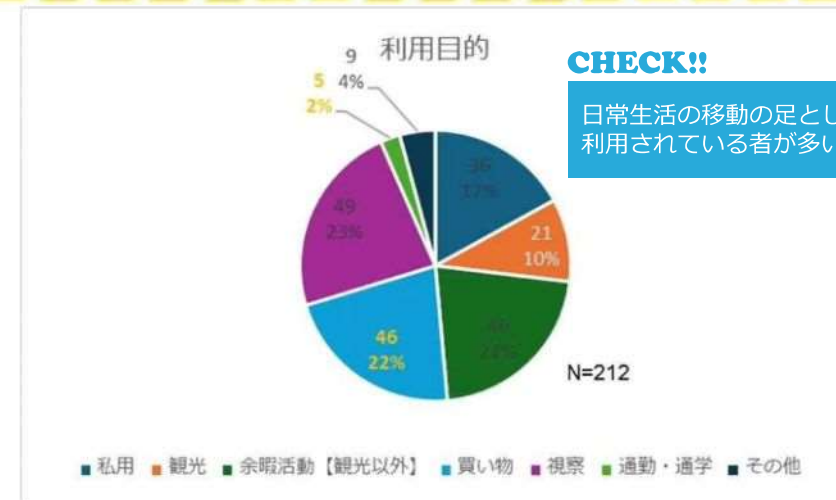
3 アンケート結果 ②



▶ 利用者属性

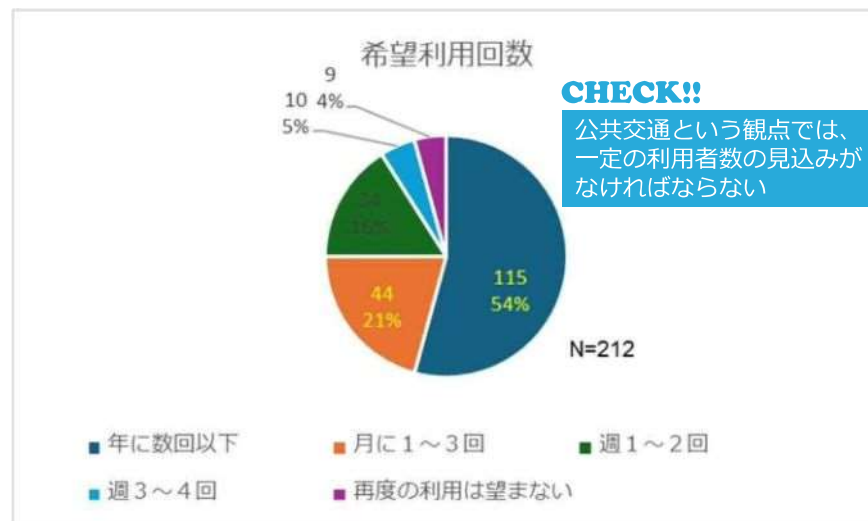
(3) 利用目的

日常生活24%、観光10%



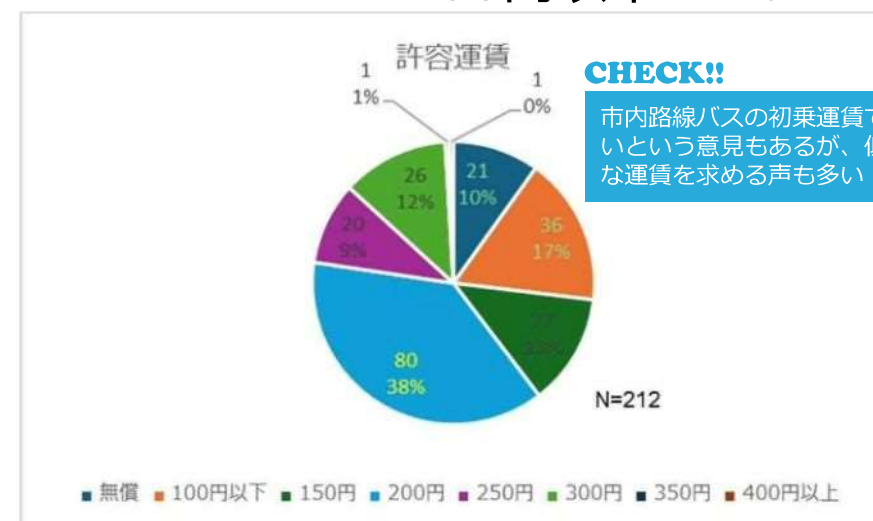
▶ 公共交通機能

(1) 希望利用回数 多くはない



(2) 許容運賃

200円約4割
100円以下27%



3 アンケート結果 ③



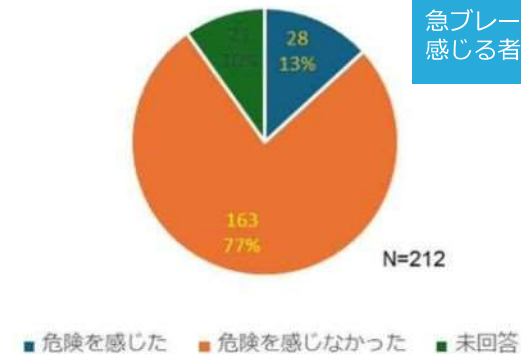
▶ 公共交通機能

(3) 乗車中危険を感じたか
感じなかった は 約 8 割

乗車中に危険を感じる場面はあったか

CHECK!!

急ブレーキ等により危険を感じる者も一定数いた



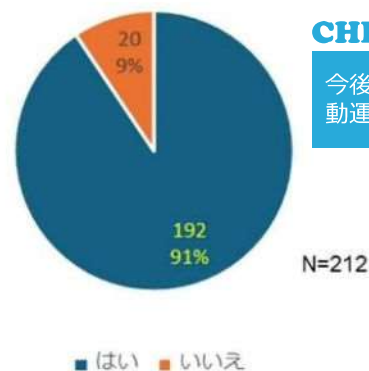
▶ 社会受容性

(1) 自動運転技術に対する信頼 高い (2) 再度利用希望者 ほぼ100%

自動運転技術に対して信頼できるか

CHECK!!

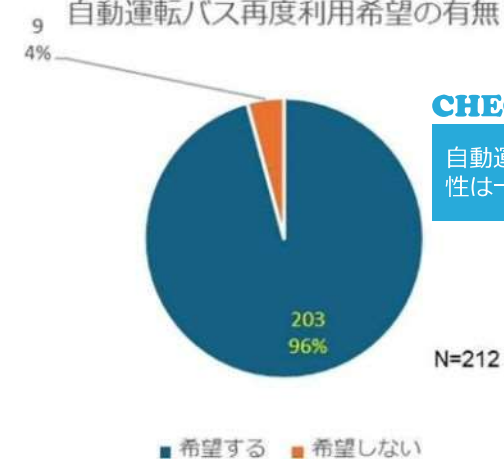
今後の技術革新も含めて自動運転技術への期待は高い



自動運転バス再度利用希望の有無

CHECK!!

自動運転に対する社会受容性は一定程度醸成された



4 残雪・生活排雪対応マップ



- 残雪・生活排雪によりセンサーが反応してしまうため対応が必要な箇所

1 往路

A		除雪の残雪
B		生活排雪
C		生活排雪
D		生活排雪による雪山

2 復路

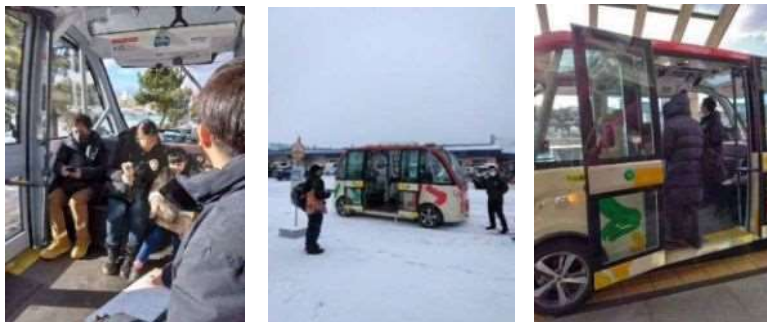
a		除雪の残雪 (中央分離帯)
b		生活排雪
c		生活排雪



5 利用者・オペレーター等の声・市担当者所感

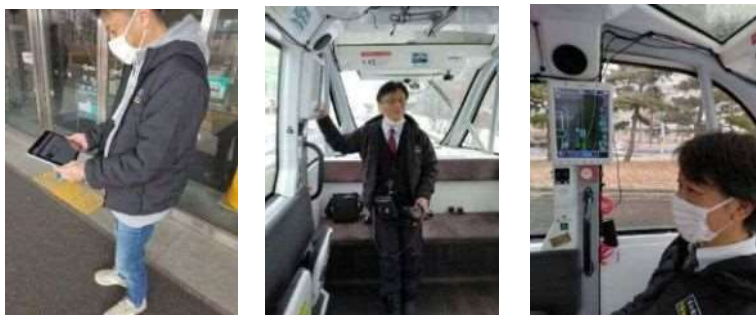


▶ 利用者



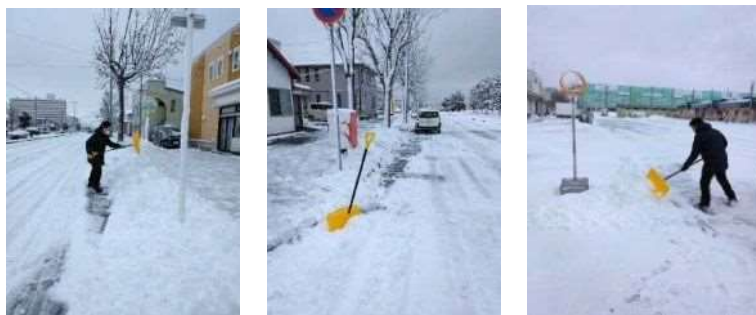
- ・ 今後も継続してほしい。
- ・ 運行のコースが便利で良かった。
- ・ 運転手不足解消の手段として実装化を期待
- ◎ 無人運転（レベル4）での運行に期待
- ◎ ブレーキのタイミングが予測できず揺れが大きい。

▶ 遠隔監視者・オペレーター



- ・ オペレーター有資格者も増え、自動運転の運行体制は整いつつある。
- ◎ 降雪について、センサーが障害物と判断してしまい、自動運転での運行が難しい。
- ◎ センサー感知範囲を、オペレーター裁量で変えることができるようなシステムとなしてほしい。

▶ 市担当者



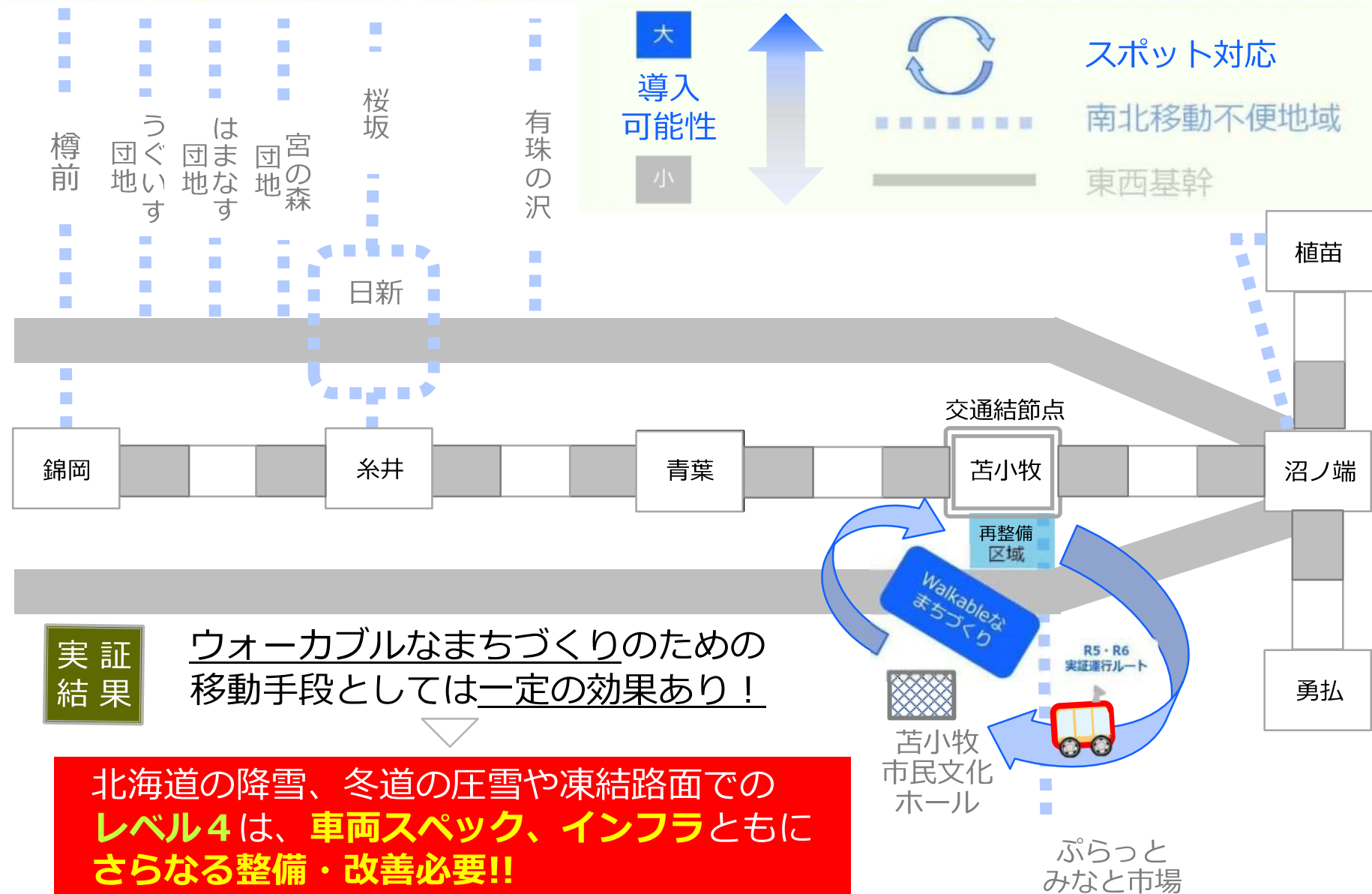
- ◎ 冬季期間でのレベル4 実現には、路車協調システムのほか、信号協調その他多くの交通インフラの導入が必要となり多額のコストがかかる。

⚠ 降雪・生活排雪に対して、認識・自動回避等センサー技術及び車両改善が必要不可欠



今回の冬季実証運行の運行ログ等の解析により、自動運行技術向上を期待!!

6 今後の自動運転の展開



北海道公式 移住支援金対象求人就業マッチングサイト

1. サイトの概要

東京 23 区に在住または通勤をしている方が、東京圏外へ移住し起業や就業等を行う場合に、都道府県・市町村が共同で交付金を支給する事業について、交付金支給対象事業所の求人情報を掲載するもの。

2. 登録状況

（１）エリア別登録状況

- ・苫小牧市：31 件（うち運送事業者 3 件）
- ・室蘭市：26 件（うち運送事業者 1 件）

（２）関係事業者の登録状況

- ・道南バス（株）：室蘭本社、錦西営業所、苫小牧営業所の計 3 件

3. 登録方法

（１）北海道庁の専用ページにアクセス。

URL <https://www.pref.hokkaido.lg.jp/kz/jzi/ui-turn/matching.html>

（２）法人登録マニュアル【第 16 版】（R7.4.1）の 2～3 頁目で対象法人としての該当有無を確認。

（３）対象法人であることが確認でき次第、4 頁目以降の記載を確認し、登録申請書を作成。

（４）完成した登録申請書を、北海道庁の所管部署にメールで送信。

（５）道庁担当者の審査（1～2 週間）完了後、1 週間ほどで「北海道移住就業支援マッチングシステム運営事務局」より求人広告の作成方法等についてメール連絡あり。

同マッチングサイトへの掲載開始！

